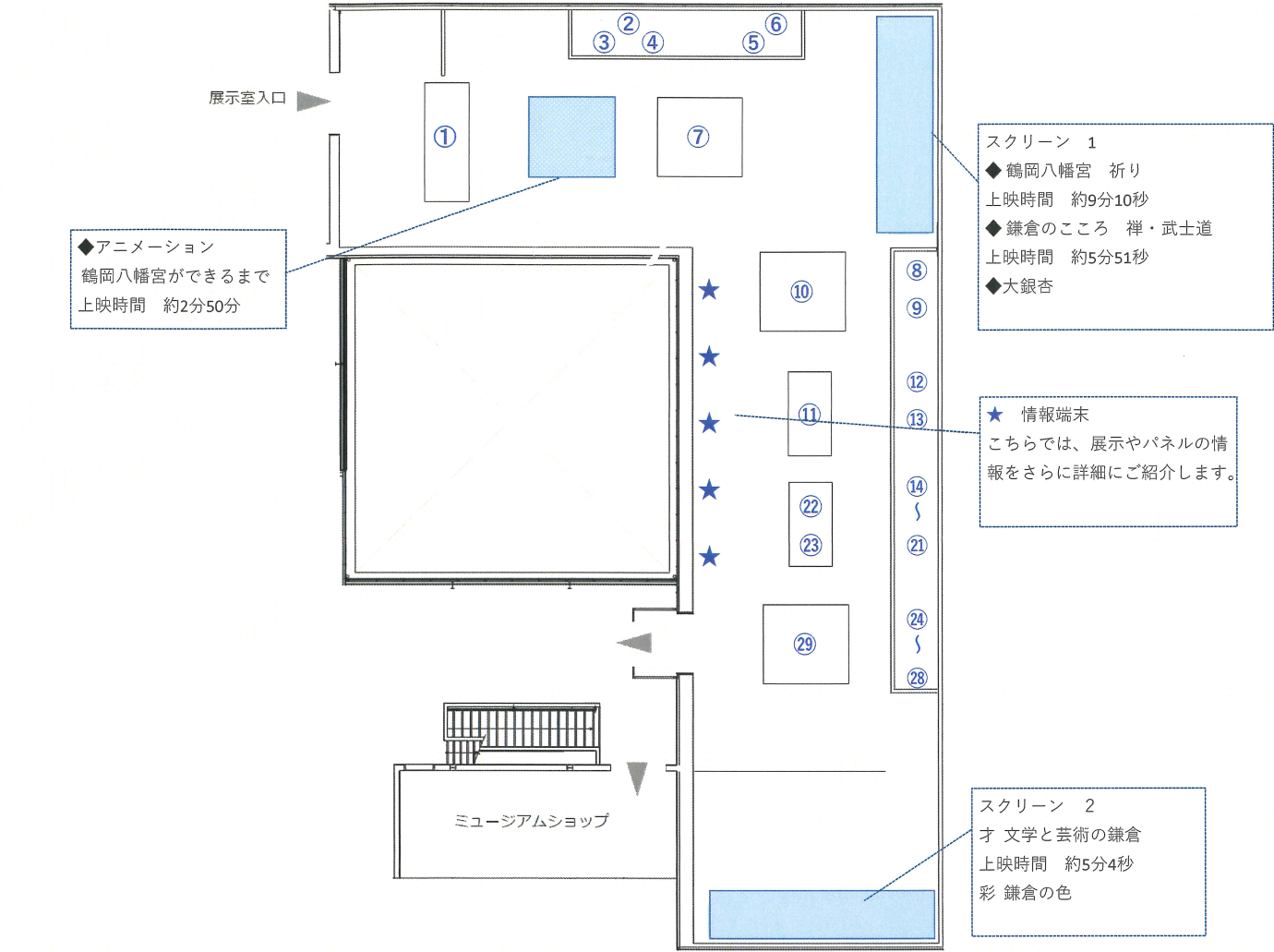


番号	作品名称		員数	制作年	所蔵
1	おお だ ち 大太刀	-	一口	江戸時代	鶴岡八幡宮蔵
2	みなもとのよりともぞう 源頼朝像（複製）	-	一幅	原品 鎌倉時代	原品 大英博物館蔵
3	みなもとのよりともそでほんしよじょう 源頼朝袖判書状	-	一幅	鎌倉時代	鶴岡八幡宮蔵
4	かまくらだいひょうじょう 鎌倉大評定 大判三枚続	うたがわよしかず いせやかねきち 歌川芳員画、伊勢屋兼吉版	三枚	1858年	鎌倉国宝館蔵
5	せい じ うき ぼたんもん おお かびん 青磁浮牡丹文大花瓶	-	二口	元時代	鶴岡八幡宮蔵
6	らんけいどうりゅうぞう 蘭溪道隆像（複製）	-	一幅	原品 1271年	原品 建長寺蔵
7	あかいとおとしよりい かぶと おおそでつき 赤糸威鎧 兜・大袖付（複製）	-	一領	原品 鎌倉時代	原品(国宝) 櫛引八幡宮蔵
8	そくたいてんじんぞう 束帯天神像	-	一幅	室町時代	荏柄天神社蔵（鎌倉）
9	さいばいほうらくしばん 裁梅法楽詩板	-	一面	室町時代・応永年間 1394年－1428年	荏柄天神社蔵（鎌倉）
10	県指定文化財 ついくくぼこ 堆黒箱	-	一合	鎌倉時代	鶴岡八幡宮蔵
11	【鶴岡八幡宮境内の出土品】 すいしょうせいごりんとう 水晶製五輪塔 せとかいゆうばち しょきせとう 瀬戸灰釉鉢：初期瀬戸窯 しょうぎこま 将棋駒	-	一括	鎌倉－室町時代	鶴岡八幡宮蔵
12	いかけじ まがききく らでん まきえ てばこ えず 沃懸地籬菊螺鈿時絵手箱絵図	-	一卷	江戸時代 19世紀	鎌倉国宝館蔵
13	いかけじ まがききく らでん まきえ てばこ 沃懸地籬菊螺鈿時絵手箱（複製）	きたむら しょうさい 北村 昭斎	一合	1996年－1999年	鶴岡八幡宮蔵
14	掛軸『物のあはれ』	こばやし ひでお 小林 秀雄	一幅	-	鶴岡八幡宮蔵
15	ぐい呑み	-	二口	-	個人蔵
16	掛軸 鎌倉や 御仏なれど 釈迦牟尼は 与謝野 晶子	よ さ の あき こ 与謝野 晶子	一幅	-	鶴岡八幡宮蔵
17	短冊 雪どけの 中にしだるる	あくたがわ りゅうのすけ 芥川 龍之介	一葉	-	鶴岡八幡宮蔵
18	短冊 かくも静かなる 薄暮の空に	はぎわら さくたろう 萩原 朔太郎	一葉	-	鎌倉文学館蔵
19	短冊 摂待の 寺賑はしや 松の奥	たかはま きよし 高浜 虚子	一葉	-	鶴岡八幡宮蔵
20	掛軸 竹密能通水 花高不隠春	なつめ そうせき 夏目 漱石	一幅	-	鶴岡八幡宮蔵
21	色紙 紅は桃花に 入りて嫩く	しまざき とうそん 島崎 藤村	一枚	1937年	鎌倉文学館蔵
22	『源実朝』	さいとう もきち 斎藤 茂吉	一冊	1943年11月刊、岩波書店	鶴岡八幡宮蔵
23	原稿「實朝の『二心わがあらめやも』 に就て」	さいとう もきち 斎藤 茂吉	一点	1943年	個人蔵
24	ほん ぼり 雪洞・画 『金魚』	きたおお じ ろさんじん 北大路 魯山人	一枚	1939年奉納	鶴岡八幡宮蔵
25	ほん ぼり 雪洞・書画 『花深处無行跡』	むなかつ しこう 棟方 志功	一枚	1958年奉納	鶴岡八幡宮蔵
26	ほん ぼり 雪洞・書 『延寿』	かわばた やすなり 川端 康成	一枚	1970年奉納	鶴岡八幡宮蔵
27	りょうおうめん 陵王面	で め もくのすけ 出目 奎之助	一頭	江戸時代	鶴岡八幡宮蔵
28	そう 箏	たる い き すい 樽井 禧酔	一面	2008年	鶴岡八幡宮蔵
29	び わ 琵琶	たる い き すい 樽井 禧酔	一面	2008年	鶴岡八幡宮蔵



【用語解説】		
ア	沃懸地	蒔絵（まきえ）の地蒔きの一。金または銀の粉を密に蒔いた上から漆をかけ、研ぎ出したもの。金粉を用いたものは金地・金溜地（きんだみじ）ともよばれる。
カ	鎌倉アカデミア	第二次世界大戦終結後の1946年5月、鎌倉で開校した高等教育のための私立学校。財政難のため1950年9月、わずか4年半で廃校となったが、映画・演劇界などに多くの人材を輩出した。
サ	三献の儀	『三献の儀』は『式三献』ともいい、本来は、神に天皇が善政を誓う宮中の儀式であったが、次第に、天皇から貴族への式となり、貴族間の接遇でおこなわれ、そして貴族から武士の出陣での戦勝誓約と武運長久の節刀授与式で使われました。鎌倉幕府が開かれた以降は、將軍から武士への式典・婚礼・接待宴席などで使われるようになり、特に出陣にあたっての主従関係の誓約をおこなう意味から重要な儀式となりました。
	丈室	《1丈四方の部屋の意》寺の住職の部屋。
タ	頂相	禅僧の肖像画、または肖像彫刻のこと。
	堆黒	彫漆の一。黒漆を厚く塗り重ねて文様を彫刻したもの。
ハ	本堅地	下地の方法。砥粉または地粉を水で練って生漆と混合し、粗い粉末を混ぜたものをいちばん下に塗り、乾かしてからその上に順に細かい粉末のものを塗り重ねていく方法で、回数を重ねるほど丈夫な塗物ができる。
ラ	蛸色塗	漆塗りの一種。立塗に対し、油分を混ぜない上塗を塗り、磨き仕上げをして艶をつけたもの。
	龍泉窯	中国、浙江（せつこう）省竜泉県にある青磁を焼く窯群。北宋時代の創業。砧（きぬた）青磁・天竜寺青磁で名高い。
ラ	蛸色塗	漆塗りの一種。立塗に対し、油分を混ぜない上塗を塗り、磨き仕上げをして艶をつけたもの。
	龍泉窯	中国、浙江（せつこう）省竜泉県にある青磁を焼く窯群。北宋時代の創業。砧（きぬた）青磁・天竜寺青磁で名高い。
【作品解説】		
1	大太刀 一口	銘 「大納言家康卿武運長久、殊者今度唐入早速御開陣、丹誠旨趣仍如件、相苧鎌倉鶴岡八幡宮奉寄進者也、 本多弥八郎正信、天正廿年壬辰八月十五日敬白」 豊臣秀吉の朝鮮出兵の折に、肥前国名護屋に開陣していた徳川家康の武運長久を折り、天正二十年＝文禄元年（1592）に家臣の本多正信が寄進した太刀。長さの割りに身幅は狭く、強い反りのある太刀。文政年間に火災にあい銘文の判読できぬところもあるが、幸い『相中留恩記略(そうちゅうりゅう おんき りやく)』などによって全文を知ることができる。